

## 学修指導改善調査 実践モニター 実施計画書

私のプロフィール		
氏名	有坂 一郎	
勤務先	上越市立高志小学校	
○ 担当学年・実践教科  4学年 ・ 国語		

### ★取組の方向

私	<p>「学びの主体者は子どもである。」はじめて1年生を担当したとき、子どもの少しの進歩が、ささやかな成長が、わがことのようにうれしかったのをよく覚えていました。</p> <p>私は、教育理念などは語れませんが、まずは子どものありのままの学びを受けとめ、子どもの学びを信じて待つ教師でありたいと思っています。</p> <p>教え込んで身に付けさせるというよりは、子ども自身が自らの力で獲得していくような教育活動をしていきたいと考えています。全然うまくできていませんが…。</p>
学級の実態	<p>当校では、全学年で「体験と書くことの一体化」を図っています。私の学級の子どもも、低学年の頃から自分が体験したことを作文シートに書き綴ってきました。ですから、書くことへの抵抗は少ないですし、自分がしたことや、感じたありのままを書くことは不得手ではありません。その子らしい作文に担任として感動することがしばしばあります。</p> <p>平成19年度 学習指導改善調査の結果を見ると、「使わなかった取材メモの使わなかった理由」がよくできませんでした。また「メモをもとに詳しく書き直す」もよくできませんでした。これは、取材をすることや、メモを書くことを日常的に行っていないからだと考えます。</p>
今後の指導の方向	<p>「書くこと」を中心にして考える力を育てていきたいと思っています。総合的な学習での体験をもとにして、今後も書くことには力を注いでいきます。子どもの主観を大事にした作文についても、これまでと同じように私は大切にしていきたいと考えています。</p> <p>その中で、まずは「自分の一番書き表したいことを明らかにして書く」といったあたりを意識させていけたらと思います。ここでメモなどが取り入れられそうです。メモから必要な情報を取り出して、詳しく書き表すといったところへと発展していくと考えます。そのためにも体験活動を大事にし、書きたいという気持ちが起こるような環境を整えていきたいと考えています。</p>